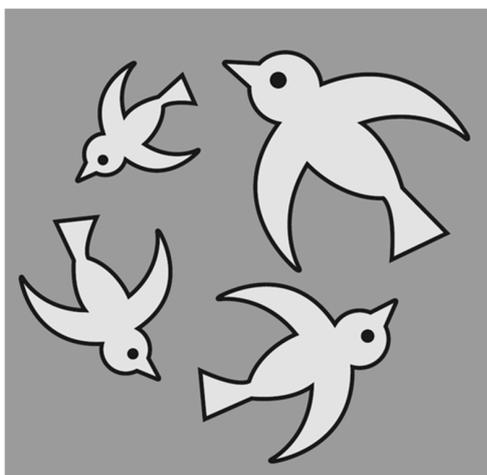


新しい学習指導要領

生きる力

学びの、その先へ



# 新学習指導要領下における 学習評価及び指導要録の改善について

〇〇

令和元年6月

文部科学省初等中等教育局教育課程課

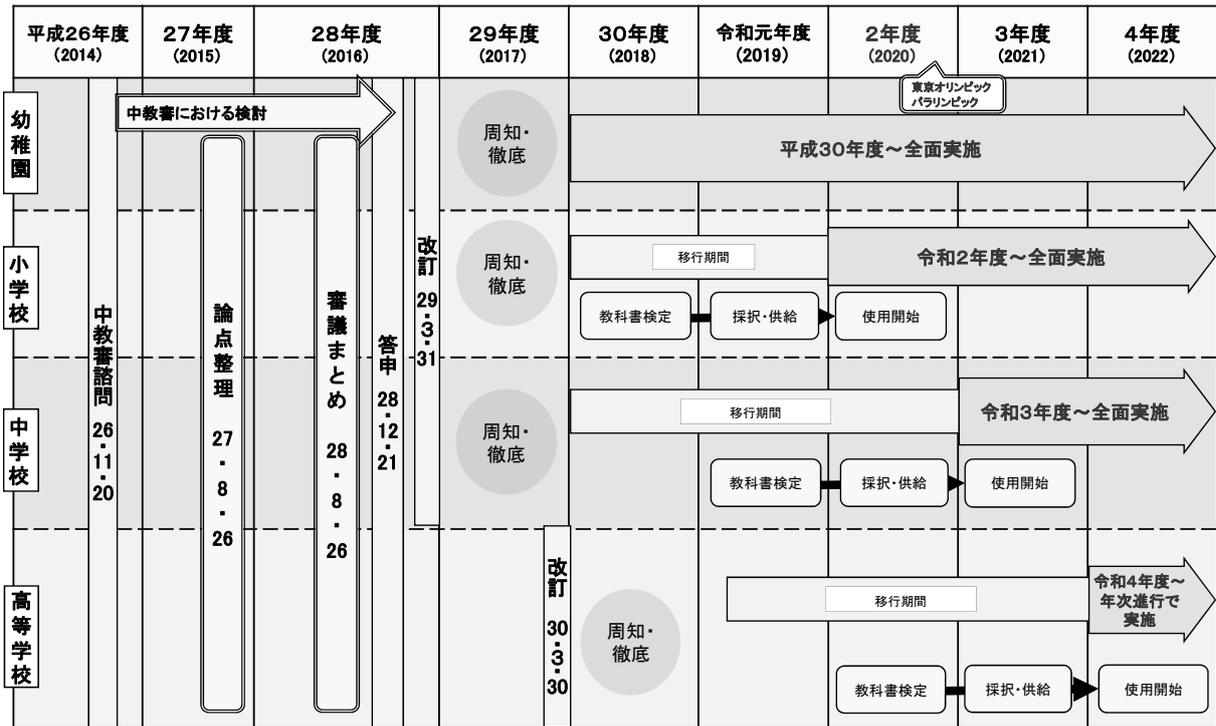


文部科学省



## 1. 新学習指導要領について

# 学習指導要領改訂に関するスケジュール



特別支援学校学習指導要領(幼稚園及び小学部・中学部)についても、平成29年4月28日に改訂告示を公示。  
特別支援学校学習指導要領(高等部)は、平成31年2月4日に改訂告示を公示。

# 学習指導要領改訂の考え方



## 新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

## 何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

## 「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

## 何を学ぶか

### 新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた 教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

## どのように学ぶか

### 主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成  
知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び

※高校教育については、些末な事象的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

# 高等学校の各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数①



〔 改 訂 〕				〔 現 行 〕			
教科	科 目	標準 単位数	必修科目	教科	科 目	標準 単位数	必修科目
国語	現代の国語	2	○	国語	国語総合	4	○2単位まで減
	言語文化	2	○		国語表現	3	
	論理国語	4			現代文A	2	
	文学国語	4			現代文B	4	
	国語表現	4			古典A	2	
	古典探究	4			古典B	4	
地理 歴史	地理総合	2	○	地理 歴史	世界史A	2	□○
	地理探究	3			世界史B	4	
	歴史総合	2	○		日本史A	2	
	日本史探究	3			日本史B	4	
	世界史探究	3			地理A	2	
公民	公共	2	○	公民	現代社会	2	「現代社会」 又は 「倫理」・「政治・経済」
	倫理	2			倫理	2	
	政治・経済	2			政治・経済	2	
数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで減	数学	数学Ⅰ	3	○2単位まで減
	数学Ⅱ	4			数学Ⅱ	4	
	数学Ⅲ	3			数学Ⅲ	5	
	数学A	2			数学A	2	
	数学B	2			数学B	2	
	数学C	2			数学活用	2	
理科	科学と人間生活	2	「科学と人間生活」を 含む2科目 又は 基礎を付した科目を 3科目	理科	科学と人間生活	2	「科学と人間生活」を 含む2科目 又は 基礎を付した科目を 3科目
	物理基礎	2			物理基礎	2	
	物理	4			物理	4	
	化学基礎	2			化学基礎	2	
	化学	4			化学	4	
	生物基礎	2			生物基礎	2	
	生物	4			生物	4	
	地学基礎	2			地学基礎	2	
	地学	4			地学	4	
			理科課題研究	1			

4

# 高等学校の各学科に共通する教科・科目等及び標準単位数②



保健 体育	体育 保健	7~8 2	○ ○	保健 体育	体育 保健	7~8 2	○ ○
芸術	音楽Ⅰ	2	○	芸術	音楽Ⅰ	2	○
	音楽Ⅱ	2			音楽Ⅱ	2	
	音楽Ⅲ	2			音楽Ⅲ	2	
	美術Ⅰ	2			美術Ⅰ	2	
	美術Ⅱ	2			美術Ⅱ	2	
	美術Ⅲ	2			美術Ⅲ	2	
	工芸Ⅰ	2			工芸Ⅰ	2	
	工芸Ⅱ	2			工芸Ⅱ	2	
	工芸Ⅲ	2			工芸Ⅲ	2	
	書道Ⅰ	2			書道Ⅰ	2	
	書道Ⅱ	2			書道Ⅱ	2	
書道Ⅲ	2	書道Ⅲ	2				
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	○2単位まで減	外国語	コミュニケーション英語基礎	2	○2単位まで減
	英語コミュニケーションⅡ	4			コミュニケーション英語Ⅰ	3	
	英語コミュニケーションⅢ	4			コミュニケーション英語Ⅱ	4	
	論理・表現Ⅰ	2			コミュニケーション英語Ⅲ	4	
	論理・表現Ⅱ	2			英語表現Ⅰ	2	
	論理・表現Ⅲ	2			英語表現Ⅱ	4	
家庭	家庭基礎	2	□○	家庭	家庭基礎	2	□○
	家庭総合	4			家庭総合	4	
					生活デザイン	4	
情報	情報Ⅰ	2	○	情報	社会と情報	2	□○
	情報Ⅱ	2			情報の科学	2	
理数	理数探究基礎	1					
	理数探究	2~5					
総合的な探究の時間		3~6	○2単位まで減	総合的な学習の時間		3~6	○2単位まで減

5



## 2. 学習評価及び指導要録の改善について



6

### 児童生徒の学習評価に関する検討の経緯



□平成28年12月21日

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(中等教育審議会答申)(※)

(※)学習指導要領の改訂に伴う学習評価の検討については、従来、学習指導要領の改訂を終えた後に行うのが一般的だったが、今回の改訂では、教育課程と学習評価の改善について一体的に検討され、学習評価の改善についても本答申に示された。

□平成31年1月21日

「児童生徒の学習評価の在り方について」

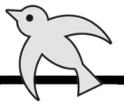
(中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告)

□平成31年3月29日

「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録等の改善等について」(文部科学省初等中等教育局長通知)

7

# 高等学校における観点別学習状況の評価の充実



高等学校における各教科・科目の評価についても、観点別学習状況の評価と評定の両方について、目標に準拠した評価として実施する。

高等学校における観点別学習状況の評価の更なる充実とその質を高めることが必要。



指導要録の参考様式にも各教科・科目の観点別学習状況を記載する欄を設置。

様式2 (指導に関する記録)		学年		区分			
生徒氏名		学校名		1	2	3	4
				第1学年			
				第2学年			
				第3学年			
				第4学年			
				第5学年			
				第6学年			
				第7学年			
				第8学年			
				第9学年			
				第10学年			
				第11学年			
				第12学年			
				第13学年			
				第14学年			
				第15学年			
				第16学年			
				第17学年			
				第18学年			
				第19学年			
				第20学年			
				第21学年			
				第22学年			
				第23学年			
				第24学年			
				第25学年			
				第26学年			
				第27学年			
				第28学年			
				第29学年			
				第30学年			
				第31学年			
				第32学年			
				第33学年			
				第34学年			
				第35学年			
				第36学年			
				第37学年			
				第38学年			
				第39学年			
				第40学年			
				第41学年			
				第42学年			
				第43学年			
				第44学年			
				第45学年			
				第46学年			
				第47学年			
				第48学年			
				第49学年			
				第50学年			
				第51学年			
				第52学年			
				第53学年			
				第54学年			
				第55学年			
				第56学年			
				第57学年			
				第58学年			
				第59学年			
				第60学年			
				第61学年			
				第62学年			
				第63学年			
				第64学年			
				第65学年			
				第66学年			
				第67学年			
				第68学年			
				第69学年			
				第70学年			
				第71学年			
				第72学年			
				第73学年			
				第74学年			
				第75学年			
				第76学年			
				第77学年			
				第78学年			
				第79学年			
				第80学年			
				第81学年			
				第82学年			
				第83学年			
				第84学年			
				第85学年			
				第86学年			
				第87学年			
				第88学年			
				第89学年			
				第90学年			
				第91学年			
				第92学年			
				第93学年			
				第94学年			
				第95学年			
				第96学年			
				第97学年			
				第98学年			
				第99学年			
				第100学年			

第1学年			
学習状況	観点別学習状況	評定	修得単位数
AAA		5	2

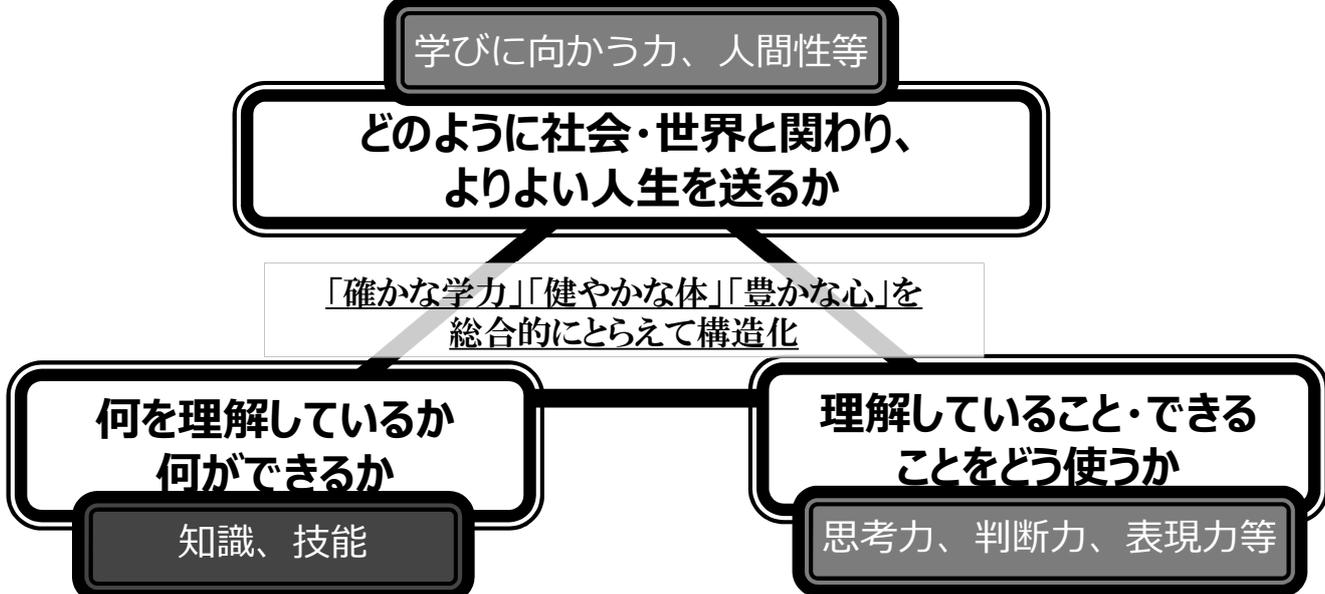
従来の評定、修得単位数に加えて、「観点別学習状況」欄を新設

<参考> 報告P. 17 改善等通知2. (4)

# 育成すべき資質・能力の三つの柱



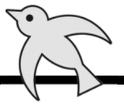
学校教育法第30条第2項が定めるいわゆる学力の三要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」)を議論の出発点としながら、学習する子供の視点に立ち、育成を目指す資質・能力の要素を、資質・能力の三つの柱として整理。



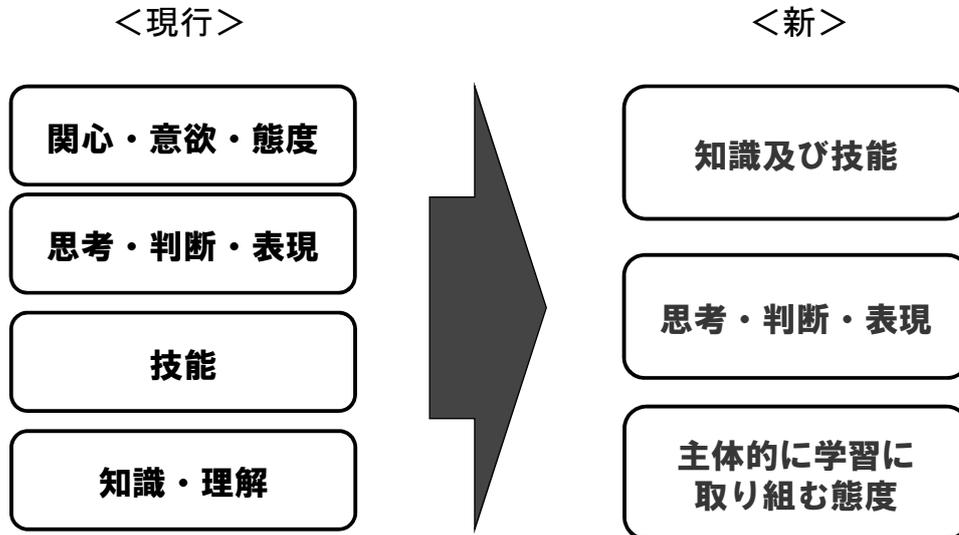
【参考】学校教育法第30条第2項

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

# 観点別学習状況の評価の観点の整理



資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理。

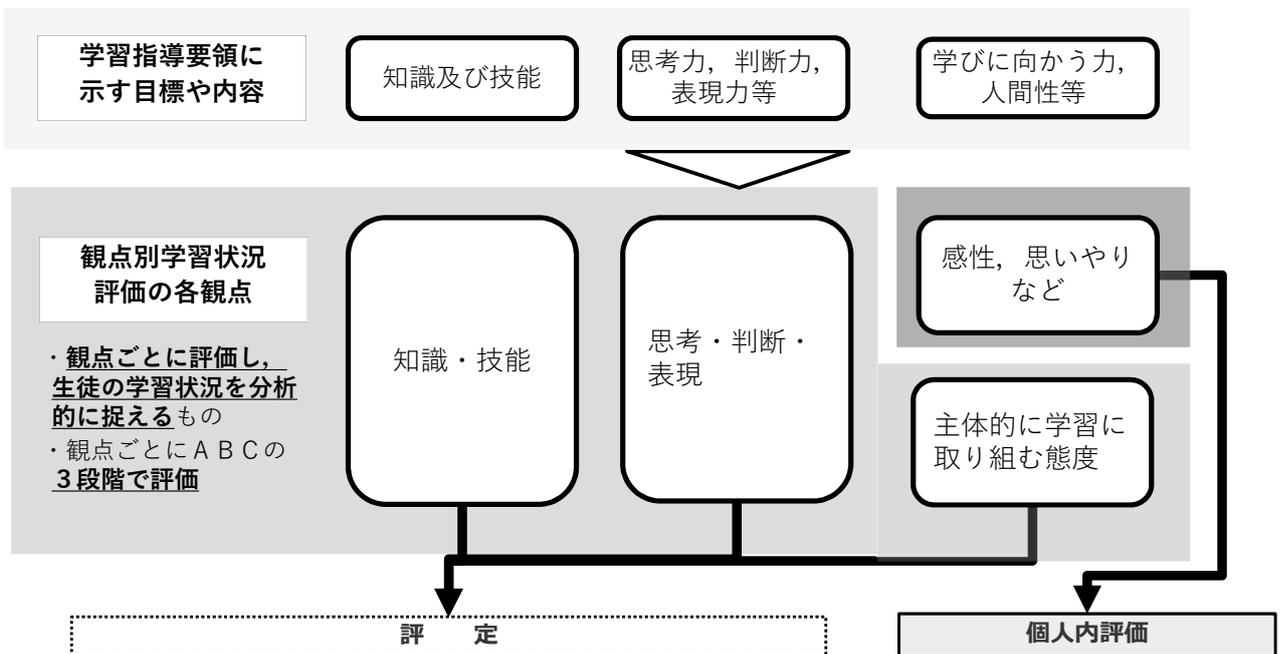


<参考> 答申P. 61 報告P. 7 改善等通知2. (1)

# 【まとめ】各教科における評価の基本構造



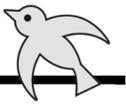
- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況进行评估するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



- ・観点別学習状況の評価の結果を総括するもの。
- ・5段階で評価（小学校は3段階。小学校低学年は行わない）

- ・観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価するもの。

<参考> 報告P. 6



参考：高等学校指導要録の参考様式の主な変更点

◆様式2（指導に関する記録）表面

様式2（指導に関する記録）		学 校 名		学年				
生徒氏名		学年		1	2	3	4	
		取組要項						
各教科・科目等の学習の記録								
各教科・科目等	科目等	第1学年		第2学年		第3学年		備 考
		学習状況	修得単位数	学習状況	修得単位数	学習状況	修得単位数	
国語	現代の国語	○	5					
歴史	〃							
地理	〃							
公民	〃							
数学	〃							
理科	〃							
体育	〃							
音楽	〃							
美術	〃							
外国語	〃							
その他	〃							

**【各教科・科目等の学習の記録】**  
従来の評定、修得単位数に加えて、「観点別学習状況」欄を新設  
※定期考査や実技などで活用可能な事例を提示するなど、高等学校の実態や教師の勤務負担の軽減に配慮

**【特別活動の記録】**  
従来の文章記述を改め、各活動・学校行事ごとに評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に○印を記入

◆様式2（指導に関する記録）裏面

生徒氏名		総合的な探究の時間の記録			
学習活動	観点	評価			
特別活動の記録					
内 容	観点	学年			
ホームルーム活動		1	2	3	4
生徒会活動					
学校行事					
総合的な探究の時間の記録					
学年	総合的な探究の時間	総合的な探究の時間	総合的な探究の時間	総合的な探究の時間	総合的な探究の時間
1					
2					
3					
4					

**【総合所見及び指導上参考になる諸事項】**  
要点を簡条書きとするなど  
記載事項を必要最小限に



## 3. 学習評価の改善と大学入学者選抜



学習評価は、学習や指導の改善を目的として行われているものであり、入学者選抜に用いることを一義的な目的として行われるものではない。



学習評価の結果を入学者選抜に用いる際には、このような学習評価の特性を踏まえつつ適切に行うことが重要。

14

<参考> 報告 改善等通知

## 大学入学者選抜の改善について



### 今後の大学入学者選抜について、国が留意する事項

- ・各大学において、特に学校外で行う多様な活動については、調査書に過度に依存することなく、それぞれのアドミッション・ポリシーに基づいて、生徒一人一人の多面的・多角的な評価が行われるよう、各学校が作成する調査書や志願者本人の記載する資料、申告等を適切に組み合わせるなどの利用方法を検討する。
- ・指導要録を基に作成される調査書についても、観点別学習状況の評価の活用を含めて、入学者選抜で必要となる情報を整理した上で検討する。

# 高大接続に関わる指導要録及び調査書のスケジュール(予定)

